

聖霊によって送り出されたバルナバとサウロは、セレウキアに下り、そこからキプロス島に向けて船出し、サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。二人は、ヨハネを助手として連れていた。（使徒13：4～5）

パウロとも呼ばれていたサウロは、聖霊に満たされ、魔術師をにらみつけて、言った。「ああ、あらゆる偽りと不正に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、お前は主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか。今こそ、主の御手はお前の上を下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう。」するとたちまち、魔術師は目がかすんできて、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、誰か手を引いてくれる人を探した。総督はこの出来事を見て、主の教えに驚き、信仰に入った。（使徒13：9～12）

アンティオキア教会から聖霊によって、バルナバとサウロは宣教に送り出された。アンティオキアからセレウキアの港町まで行き、そこからキプロス島に向けて船出した。キプロスはバルナバの故郷で、彼は故郷宣教を目指した。福音の喜びをまず身近な者に伝えようとしたのである。

キプロス島のサラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。サラミスは島最大の港町で、ユダヤ人の居住地もあった。バルナバとサウロは自分たちをユダヤ教から派生した一会派と見なしていたので、ユダヤ人の諸会堂で、福音宣教を始めた。二人はマルコ・ヨハネを助手として連れていた。彼は、最後の晩餐の会場を提供したマリアの息子ではないか。エルサレム教会からアンティオキア教会に連れて来た青年である。島全体を巡ってパフォスまで来た。パフォスは地方総督の行政所在地であった。そこで、ユダヤ人の魔術師で、バルイエスと言う偽預言者に出会った。彼は島の総督セルギウス・パウルスという賢明な人物と親しい関係にあった。総督は開かれた知性の持ち主で、アンティオキアから来て、新しい教えを説くバルナバとサウロを招いて、神の言葉を聞こうとした。バルイエスは別名をエリマ（魔術師）とも言われていた。彼は、総督が自分から離れたら、自分の立場がなくなることを恐れ、総督を二人から遠ざけようと妨害した。

著者ルカは、この時からサウロをギリシア語のパウロと書いている。パウロは、福音宣教を妨害する魔術師をにらみつけて、「ああ、あらゆる偽りと不正に満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵、お前は主のまっすぐな道を曲げることをやめないのか」と叱った。魔術師とは、人が驚く奇策を用いて人の心を捕え、自分の利益と栄誉を得ようとする者である。パウロは、魔術師を悪魔の子と呼び、偽りと不正を激しく叱責した。そしてパウロは、「今こそ、主の御手はお前の上を下る。お前は目が見えなくなって、時が来るまで日の光を見ないだろう」と、裁きを宣言した。するとたちまち、魔術師の目がかすんできて、すっかり見えなくなり、歩き回りながら、誰か手を引いてくれる人を探した。パウロは、彼が書いた手紙では寛容で、忍耐強い人のように見えるが、福音宣教に敵対する人に対しては激しい口調で語る人であった。

この出来事を見た総督は驚き、パウロたちが語る言葉に真実があることを認め、受け入れて信仰に入った。サラミスにもパフォスにも教会の設立は書いてないが、キプロス宣教における最初の実りとして総督の入信を書いている。この体験は、異邦人宣教に対し、大きな自信と展望を持つことになったのではないか。